

第1回利賀ダム環境検討委員会 議事要旨

開催年月日／会場	議 事	出席委員(敬称略)	議事要旨	
平成16年8月24日 利賀村複合教育施設 「アーパス」 (南砺市利賀村)	①委員会設立趣旨等について ②利賀ダム事業の概要 ③環境影響評価の考え方 ④現況報告 ⑤環境影響検討項目の選定 ⑥その他	阿部 學(日本猛禽類研究機構 理事長) 大串 龍一(金沢大学名誉教授) 小泉 邦雄(富山大学工学部教授) 高倉 盛安(元富山県立大学短期大学部長) 田中 晋(富山大学教育学部教授) 長井 真隆(元富山大学教育学部教授) 中村 浩二(金沢大学自然計測応用センター教授) 湯浅 純孝(富山県自然博物館ねいの里館長)	委員会設立趣旨等について	<ul style="list-style-type: none"> 委員会設立趣旨、委員会規約について各委員の了承を得る。 元富山大学教授 長井真隆氏が互選により委員長に選出され、承認された。
			利賀ダム事業の概要について	<ul style="list-style-type: none"> 利賀ダムで設置したエコ側溝の事例を見ると、逃げ道が一方向だけとなっているが、季節移動が自由にできるような両方向(山側と谷側)に行き来できる構造がよい。また、主要な移動経路を確認して設置するのがよい。なお、移動経路の特定方法としては、個体にマーキングして追跡する手法もある。 利賀ダムで設置したビオトープの事例紹介があったが、湿地のビオトープは維持管理が重要である。また、環境教育の場として活用している事例もある。 環境保全目的で対策を実施したものについては、モニタリングを実施して効果確認を行い、情報の蓄積を図ることが重要である。
			環境影響評価の考え方について	<ul style="list-style-type: none"> 利賀ダムは環境影響評価法以前の計画のために同法の対象外となっているのであり、規模により対象外となった訳ではないことを分かるようにしておくこと。
			現況報告について	<ul style="list-style-type: none"> 必要な調査・検討手法については、専門分野の各委員の指導を得ながら調査漏れの無いようにすること。水環境でいえば、例えば環境基準の項目追加に伴い亜鉛を調査項目として実施する等。
			その他	<ul style="list-style-type: none"> 絶滅危惧種の位置情報等については、種の保全の観点から環境省より公開してはならないとされている。 経済産業省の委員会では、貴重種(の位置情報)等について議論する場合は、一時的に(記者等に)退席してもらうようにしている。 貴重種等の特別なものを除いて、原則公開というスタンスでよいのではないか。 委員会で、貴重種の詳細な内容等について議論する場合は退席してもらい、公開する委員会資料には貴重種の位置情報を掲載しないという方向でよいのではないか。 審議内容を各委員に確認をとるときは名前が入って、公開するときには委員名がないということをやっているところもある。 (審議内容を)ホームページ等で公開する場合には、委員会の記録を委員に配って、発言内容をチェックしてもらうことをお願いしたい。 環境レポートは、概要版と報告書の2編作成し、公開は概要版でやっていくのがよい。 環境レポートで公開する内容も事前に各委員に確認してもらうこと。 環境レポートでは、資料編(データをとりまとめた報告書等)も公開するのか。現地の生データは、重要な記録(成果)であるため、活用できるようにしてもらいたい。 資料編についてはしっかり保存するなり、別の手法で公開する方がいい。例えばダム資料館(管理施設)で整理しておく等の手もある。